

平成26年度「重点研究費」研究成果報告書

研究課題	社会科の特性を活用した教員養成大学における初年次教育の内容開発研究—新カリキュラム「社会科入門セミナー」の充実のために—
------	--

研究代表者

氏名 大石 学	所属 人文科学講座歴史学分野	職名 教授
------------	-------------------	----------

研究分担者

氏名 小嶋茂稔 荒井洋一	所属 人文科学講座歴史学 哲学・倫理学	職名 准教授 教授
井ノ口哲也 高籾 学	人文科学講座哲学・倫理学 社会科学講座経済学	准教授 教授
苜米地 伸 安原 陽平	社会科学講座社会学 人文社会科学群法学政治学	准教授 特任講師

【研究成果の概要】 (文字の大きさ9ポイント・字数800字～1600字程度)

本研究は、平成27年度入学生から適用されるカリキュラムにおいて、初年次教育として各教室の専攻必修科目として導入される「〇〇選修／専攻入門セミナー」の授業運営のあり方を、社会科教室に所属する教員の立場から分析・検討したものである。本研究の前提として、すでに社会科教室では、平成22年度カリキュラム施行時から、1年生を対象に、大学での勉学に慣れ、積極的な読書習慣を身につけさせることを主たる狙いとした「社会科入門演習」を実施してきた。本研究は、来年度からの「社会選修／専攻入門セミナー」の導入にあたり、教員養成系大学にふさわしい初年次教育を実現するために、「社会科入門演習」の経験を批判的に継承しながら、各担当者の専攻領域の成果の活用をはかりつつ、新たな社会科としての初年次教育のあり方を構築することを目的としたものである。

本研究は、以下のように進められた。

まず、研究組織構成員の個々の専門領域の内容を、平成27年カリキュラムの「社会選修／専攻入門セミナー」でどのように活用できるかを、研究代表者・分担者がそれぞれ担当した平成26年度の「社会科入門演習」の授業を実施するのに並行して分析・検討した。それらの成果については、研究会を実施して、各人の研究成果や授業実践での取り組み方等について、相互に検討・議論を深めた。また、カリキュラム改訂特別委員会で検討が進められていた、「共通5回分」の内容や進め方についても共通理解を形成するように努めた。

ただ、残念ながら、配分された研究費の金額から、他の教員養成系大学における初年時教育の実態調査や先進的な取り組みを進めている大学の状況調査については、着手することができなかった。

研究の成果は、報告書『社会科の特性を活用した教員養成大学における初年次教育の内容開発研究—新カリキュラム「社会科入門セミナー」の充実のために—』に集約した。「社会科入門演習」の経験を踏まえつつ、新しい「社会選修／専攻入門セミナー」に向けての提言をまとめることができた。なお、この報告書は、人文社会科学系の教員をはじめ、全学の多くの教員に配布して、個々の教室における「入門セミナー」の実践の参考としてもらう予定である。

研究成果発表方法

[発表論文名(口頭発表を含む)、氏名、学会誌等名(投稿中・投稿予定・執筆中)を記入する。]

※本経費を用いて、報告書(冊子等)を作成した場合には、本様式とともに1部を提出すること。

なお、提出された報告書は教育実践研究推進本部を通じて附属図書館へ寄贈する。

研究報告書『社会科の特性を活用した教員養成大学における初年次教育の内容開発研究—新カリキュラム「社会科入門セミナー」の充実のために—』を作成した。